

朝日新聞 2011(平成23)年1月6日(木) 佐賀版 ぶらりミュージアム

1月6日 木曜日 13版 ▲ 第2佐賀 佐賀 30

ぶらり ミュージアム

県立美術館

伊東深水の門に学んだ立石春美(1908~1994)は、古い美人画の伝統を受け継ぐ清楚な画風で知られる。立石の描く女性像といえば、日本髪に華やかな着物をまとった舞子の姿がすぐに思い浮かぶが、本作「早乙女」は、労働にいそむ女性を描いたもの。前を見据え、ぴんと背筋を伸ばして歩をそろえる2人の乙女は、今まさに田植えに向かうところだろうか。

早乙女

働く美女に戦後の日本人投影

繊細で滑らかな描線による裸足は、若くかれんでありながらも、たくましい。みずみずしくはつらつとした気が漲る立石の名作のひとつで、舞子とはまた一味違った女性の「美」を見事に描き出している。

本作は、終戦直後の1947(昭和22)年に描かれている。立石は2人の美しき乙女に、新しき時代に向かう日本人の姿を見ていたに違いない。

戦後60年を過ぎ、日本は今、平和の中にも様々な問題を抱え、混迷の中にある。そうした時代だからこそ、本作のりりしさがひとときわ眩しく、心に響く思いがする。本作は、2月13日まで開催している美術館コレクション展「女性美の名品」で展示している。

(県立美術館
学芸員 野中耕介)



佐賀市城内1の15の23。電話0952-24-3947。バス停「博物館前」下車、徒歩1分。開館は午前9時半〜午後6時。休館日は月曜、ただし1月10日は開館(11日が休み)。

立石春美・作/
絹本着色、屏風(びょうぶ)装、二曲一隻/寸縦218.3
センチ、横194.2センチ